

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872600051
法人名	有限会社 福祉未来計画
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホーム榎子木
所在地 (電話番号)	茨城県那珂市戸崎508-3 (電話)029-353-0583

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月8日	評価確定日	平成19年12月17日

## 【情報提供票より】

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 人

## (2)建物概要

建物形態	併設 / ○単独	新築 / ○改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階 建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,100 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( )	無 ○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円以内)	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200 円			

## (4)利用者の概要

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	4	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	北友会 勝田病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム榎子木は緑豊かな自然環境の中に立地しており、敷地内にも樹木や草花が豊かに植えられていて季節を感じながらゆったりとした時間を過ごすことができるような落ち着いた雰囲気づくりがされている。管理者は自分が暮らしたいようなホームづくりを目指し、その実現に熱意をもって取り組んでいる。介護経験の長いベテランの職員達が利用者に対し常に安定したかわり方をして、利用者それぞれの生活のペースを尊重した支援が行われていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後、職員間で話し合いながら、ヒヤリハット事故報告書や各種マニュアルの作成、利用者個別のケアプランの充実が図れた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で話し合いを繰り返し、それを管理者がとりまとめ自己評価票を作成した。自己評価と外部評価を通してさらにケアの質の向上を図りたいと意欲的な取り組みができています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は10月から開催される予定で、現在は準備の段階であり有意義な会議になるような体制づくりを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望、不安への対応は、個別に応じて、随時面会時や電話などで行っているが、直接伝えるににくい内容等に対しては意見箱の設置も今後計画する予定。さらに、運営推進会議などをきっかけに家族会の組織についても考えていく予定。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事に近隣の方にも参加いただいたりして交流がはかれている。また緊急時の協力の要請などをお願いできる関係づくりもされている。今後はさらに地域の方にホームを今以上に理解していただき、利用者も地域の一員として連携できるような取り組みをしたいと考えている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が自ら入所したいようなグループホームにしたいという大きな目標があり、その目指す姿を事業所の理念としてとらえている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	福祉施設でともに働いてきた友人同士で立ち上げたグループホームであるため、毎日の話し合いの中や日常ケアを通して理念の共有ははかれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方達とは、お花見会などを通しての交流を行っている。	○	地域の自治会や老人会に参加することで、定期的、継続的に地域との交流がはかれるので、同意をした利用者だけでも加入することが望まれる。また、ホームだよりを作成し、地域に向けて配布するなど、地域に対する具体的な働きかけを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の作成については、職員全員に内容を話し合ってから作成した。それにより、日々のケアの不足部分についての確認がなされた。また、外部評価を職員の研修に役立てたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年の10月から始める予定で、準備を進めている段階である。今後、計画的に運営推進会議を行い、サービスの向上にむけて行政や地域と連携した取り組みを行いたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、市町村との連携が図れている状況である。	○	市町村の窓口にグループホームのパンフレットを置かせてもらうなど、ホーム側から市町村に対し積極的にアピールし、市町村と一緒に課題解決ができるような関係作りに期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来訪した際に詳細に報告したり、適宜電話連絡をしたり、利用者と家族の要望に応じて定期的に、個別の対応で健康状態や生活の様子を報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を聴く努力を最大限行っている。	○	家族会を組織したり、家族からの意見や要望を拾う窓口を多くしたりするなど、家族が意見や要望を表しやすい工夫を行い、出てきた意見を組織的に拾い上げ、それを運営に反映できるような体制づくりが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ職員の退職はないため、利用者への影響はない。今後職員の交代が生じた場合の引継ぎについては、利用者や家族に対して配慮しながら行うように準備している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修として、ケアマネージャーによる伝達講習等を行っている。また、各個人での学習も行っている。今後は外部の研修を計画的に行っていく予定である。	○	年度の初めに研修のテーマを決めて、年間の研修計画を立てて、計画的、継続的な研修の体制づくりが望まれる。施設内の研修の充実と同時に、外部の研修を取り入れることで他のグループホームの職員との交流もできるのでそうした取り組みも期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はまだ連携はとれていない。	○	今後は近くにあるグループホームと定期的な交流をもち、相互に情報交換をしてサービスに反映させていきたいと考えているとのこと。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、事前に充分利用者と家族と職員とでコミュニケーションをとるようにしている。また、入居後しばらくの間、毎日家族に面会に来てもらうようお願いしている。必要時、家族と一緒に宿泊してもらう等配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のそれまでの生活を尊重した働きかけをするようにしている。かかわりの中で職員が利用者に教えてもらうこともあり、支え合う関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者に関する情報を共有し、利用者の望みを尊重したかかわりができるように配慮している。利用者が希望を十分に伝えられない場合は、家族も含めて話し合いをして利用者の希望にそったサービスの提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは利用者の担当介護者とケアマネージャーが相談し立案している。利用者個々に課題と援助計画が明記してある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは利用者個々に応じて適切に立案され、適宜見直しもされている。	○	高齢者の心身の変化は分かりにくいものもあるので、安定しているような利用者も月に1回程度はモニタリングを行い、ケアプランの見直しをすることが望まれる。変化の兆しに予防的に対応できるように計画的なケアプラン見直しの取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性については、現時点では利用者や家族からの要望もないため、まだ具体的には考えていない。今後は利用者や家族の要望を聞きながら少しずつ準備する必要があると考えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の仕方や受診結果の報告については、本人や家族と相談しながら、納得のいくように馴染みのかかりつけの医の受診を支援している。受診時の記録も残されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療が必要になった場合は、その後の生活の方針を本人、家族と相談して決めている。		急変時の対応、重症化、終末期の場合の体制づくり(マニュアル化)と方針の統一を現時点から作っておくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報を注意して取り扱い、秘密保持の徹底が図れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は特に日課を決めておらず、利用者の望む生活のペースを尊重した支援ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日3食の食材の配食サービスを利用しているが、利用者が希望したものは予定のメニューになくても取り入れてメニューの工夫をしている。食事前後のテーブル拭きや片付けも利用者で行うようにしている。	○	食材の下準備や食事作り、配膳、片付けなどさらに積極的な利用者を取り入れた食事場面での関わりが望まれる。また利用者と職員が同じ食卓を囲み家庭的な楽しい雰囲気ですら提供できるような取り組みに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴時間を決めずに、利用者の生活のペースに合わせた個別に応じた入浴支援ができています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や草取り、買い物など一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて継続的な役割や気晴らしができるように支援している。施設の行事などでも利用者が楽しんで役割ができるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接している公園に毎日散歩に出かけている。また、ときどき買い物に出かけ外出場面を通して気分転換が図れ、生活が単調化しないような配慮をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに、門も閉めないで、しっかり見守ることで自由な外出を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し防災訓練を実施している。施設周辺のパトロールを警察に依頼し行ってもらっている。また隣家には緊急時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握は個別にチェック表を用いて行っている。食事の形態は個別の状態に応じて軟菜にしたり工夫している。水分摂取は細かくはチェックしていないが、時間で水分摂取を勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節感が取り入れられており、光の明るさも適切で、家庭的で自然な雰囲気居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箸や湯呑みは本人が持ってきた馴染みのものを使用している。	○	利用者のこれまでの生活の歴史が窺えるような、馴染みのものが少しでも居室にあることで安心した生活空間作りにつながるので、本人・家族に働きかけその人らしい居室づくりの工夫が望まれる。